

令和 2 年第 1 回経済建設常任委員会 概要報告

年 月 日	令和 2 年 1 月 20 日	会場	名寄商工会議所 会議室	案件	商工観光の施策について
出席委員	山田典幸、佐久間誠、塩田昌彦、今村芳彦、三浦勝秀、富岡達彦				
委員外議員					
欠席委員					

名寄商工会議所との意見交換会

(商工会議所:藤田会頭、長谷川副会頭、扇谷専務理事、井上事務局長)

経済建設常任委員会では「産業振興による地域経済活性化とまちづくりについて」を調査・研究テーマとして市内各関係団体と意見交換を進めることとしており、今回は名寄市商工会議所との意見交換会を行った。

1) 市内商工業の状況-藤田会頭

商工業振興基本計画を策定し、どこへ向かっていくかを明確にしていかなければ衰退の一途をたどる。ここ数年で 80 社くらいが無くなり、内 8 割が廃業。一方、会議所の組織率は 50%程度。加入の勧誘活動をしているが、加入数よりも 2~3 割多くやめていく状況で、活性化が失われている。要望はここ 3~4 年変わっていない。

2) 名寄商工会議所の「令和 2 年度行政施策に関する要望書」の説明を受け委員との意見交換

Q 商工業振興基本計画策定での連絡調整会議の審議状況は。

A 基本計画を策定する話が出るが「継続審議」となっている。昨年 6 月の公社問題以降途絶えている。名寄市中小企業振興条例を根拠条例とし、そのもとに商工業振興基本計画を作りたい。

Q 他の自治体では「まちづくり会社」を立ち上げ活性化している事例もあるが。

A 会議所は会員の寄り合い所帯で農協とも違う。リード役として別組織の必要性は感じるが、構想が止まっている。人口減少で商店街も先が見えない。仕事もいつまで続くかという先が見えないと、人を雇えない。先を見据えた作業が必要。

Q 農業者と経済界とのタッグなど一緒に考えられることは。また、名寄市内企業を優先的に考えた基盤づくりの事業が必要ではないか。

A タイアップしながらオリジナリティあるものを生産していく循環が必要。行政の公平・公正もわかるが、企業は利益を市に還流させる。そのあたりも考え、時限的措置であっても、行政には力をつけさせるための施策を講じて欲しい。

Q 昨年王子マテリア撤退の発表が一番経済的にダメージが大きいと思う。基本計画策定の調整会議が必要と思うが。

A 人口減少、高規格道路で名寄を通過することになれば街はしぼんでいく。何らかの計画を立て知恵を寄せ合っていかなければならない。ガソリンスタンドであるとか、コンビニ、物流の中心地としてのトラック積み替え、集積の場とか、立地に基づいた投資を今

からやり、持続可能なまちづくりにいち早く乗り出さなければならない。

Q 受け身の支援策に思えるが、今の施策をどう考えているか。

A 公平・公正はわかるが、何かに特化していかなければならない。例えば、「高齢者は1人もマチから出さない」くらいの魅力ある施策を示すなど、目標を掲げ、集中的に進める特化した施策が必要ではないか。

この他、官公需受注機会の確保、JR宗谷本線、物流拠点の構築、空き店舗対策、公共施設の再配置などで活発な意見交換が行われた。

扇谷専務理事からは、市の中小企業振興条例は企業の自主的な努力を前提にしている。経済が右肩上がりの時には企業自身の裁量でできたが、この理念を一旦リセットしてもらわないと、商店街や中小企業はもたない。働き場の9割を中小企業が支えており、そこがなくなると経済、地域のコミュニティに大きな影響を及ぼす。今後のまちづくりとして施策を考える必要がある。——との趣旨で「商工業振興基本計画」策定の早期実施について話された。

山田委員長が「今後のまちづくりへの共通認識がはかられた。出されたご意見、行政へのご提言などはしっかり取り組んで、委員会活動の中で生かしていきたい」と述べ、名寄商工会議所との意見交換会を終了した。

報告者 経済建設常任委員会 副委員長 佐久間 誠